

【愛媛県】

県立中等教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部・中学部に係る校務DX計画

本県では、令和元年度に校務支援システムの全校稼働を開始するとともに、令和6年度には庶務事務システムを導入するなど、教職員の働き方改革を推進している。

また、1人1台端末導入後は、県が独自に開発したCBTシステムや学習支援システム、汎用クラウドツール等の積極的な活用により、教科指導の充実を図るとともに、課題提出や情報伝達の効率化を進め、ペーパーレスを推進してきたところである。

今後は、文部科学省の「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」等の内容を踏まえつつ、本県の更なる校務デジタル化に向け、次に掲げる取組を推進する。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合

本県では、校内で利用するネットワークを、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒・教職員が教育活動で利用する「学習系」に分離し、「校務系」は外部のネットワークから完全に分離された閉域網で運用している。

ネットワーク環境の次期更新を見据え、教職員の働き方改革や教育活動の更なる高度化を目指し、ゼロトラストの考え方に基づくセキュリティ対策を講じた校務系と学習系ネットワークの統合について、学校や関係業者と連携を図りながら調査研究を着実に進める。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在の校務支援システムはオンプレミスで運用しており、教務・保健・学籍・成績管理などの様々な校務で利用されている。

システムの次期更新にあたり、出席確認や保護者への文書配布などの汎用クラウドツールとの連携や、本県が独自に開発したCBTシステム等の1人1台端末に蓄積された学習データとの連携を可能とする環境の構築を視野に、学校と現場における課題・ニーズ等の情報共有も図りながら、基盤となるネットワーク環境の更新と併せて、校務支援システムのクラウド化に向けた調査研究を進める。

3. 各種ツールの活用

(1) 庶務事務システム

令和6年度に導入した庶務事務システムにより、これまで紙やエクセルで実施していた服務、給与・諸手当等に係る事務手続きを一元化し、教職員の負担軽減及びペーパーレス化を図っている。

学校現場から出てきた課題や要望等も踏まえながら、適宜、改善に向けたシステムの見直しを行い、教職員の負担軽減を図る。

(2) CBT システム

県が独自に開発した CBT システム「EILS」では、小テスト等の作成から採点、集計業務を自動化し、教員の負担軽減に寄与しているが、作問の負担が大きいことや計算過程が見えず誤答分析が困難であること等が課題となっている。

今後はシステムへの問題の蓄積を進めるとともに、作問ノウハウの習得を推進し、システムの一層の充実を図り、教員の業務効率化につなげる。

(3) その他

停電報告など関係部署が複数にまたがる事項について、入力フォームにより窓口を一本化することで、業務の簡素化・自動化を図りながら、伝達ミスを防ぐための取組や汎用クラウドツールを用いた保護者への文書配布を推進するなど、様々なツールを駆使しながら、校務処理の効率化とペーパーレス化を推進する。

好事例については、ホームページや研修等で横展開を図り、全県的に校務 DX の推進に取り組む。

4. 校務における生成 AI の活用

文部科学省が示す「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」を遵守し、教材や指導案の作成などで生成 AI を効果的に活用することで、校務の効率化や質の向上を図り、教職員の働き方改革につなげる。

生成 AI の利活用を通じて、教職員がその利便性や懸念点の理解を深めることで、教育活動における生徒の生成 AI の利活用を進め、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させる。